



学 会 通 信

第 76 号

2016 年 2 月 5 日発行

目次

ご挨拶	2
編集委員会からのお知らせ	4
編集委員会・企画委員会合同ワークショップのお知らせ	5
第 2 回研究会のお知らせ	7
ICoME のご案内	8
学会費納入のお願い、入会者・退会者	9

ご挨拶

変わりゆく学力観と教育メディア研究の方向

日本教育メディア学会 会長 黒上 晴夫 (関西大学)

1. 学習指導要領の改訂に向けた動き

次の学習指導要領改訂に向けた議論が始まった。議論は、高大接続の在り方の検討と一体的に進められている。それは、単に大学入試の方法を変更することではなく、高校生の学習、ひいては小中学校での学習を、より充実させる方向での検討である。

両者の改革について重要なことは、2つある。1つは、どちらも学力観の変更を迫るものだという点である。キーワードは、「資質・能力」である。従来の学習指導要領は、「必要な教育内容を系統的に示」してきたのに対して、「育成すべき資質・能力を子供たちに確実に育む」ことを目指すというのである（学習指導要領改訂に向けた諮問：初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について）。現在の学習指導要領にも当然、教科内容だけでなく育成すべき資質・能力を幅広くとらえた記載はあるが、その両者の比重が変わると考えればよい。

では、資質・能力とは具体的に何か。今のところ、以下の三つの柱が示されている。

- ① 個別の知識・技能
- ② 思考力・判断力・表現力等
- ③ 学びに向かう力、人間性等

従来の評価の枠組み「関心・意欲・態度」「思考力・判断力・表現力」「技能」「知識・理解」が組み換えられたように見えなくもないが、「どのような力が身に付いたか」を多面的に評価することがより重視されるとみるのが妥当だろう。そして、その多面的な評価の方法が、高大接続の中でもさまざまな角度から検討されている。

つまり、学習指導要領の改訂によって、授業で意識される学力の比重が変わり、それを受け止める高大接続の場面についてもそれが踏襲されるということである。ちなみに、高大接続について議論されているのは、大学への進学についてだけではなく、高等学校における学習の質を高める評価の在り方全般についてである。

2つ目は、それが、「新しい」学習の仕方の導入を迫るものだという点である。アクティブ・ラーニングと呼ばれている学習である。紹介されているアクティブ・ラーニングの手法はさまざまだが、その多くに共通するのは、学習者中心主義に光が当てられ、理解や考えを深めるために集団の力を利用するという点である。これらは、自ら課題を持ち調べて意見をもつ主体的な学びと、他者と考えを共有することによって考えが更新される協同的な学びという2つの要件としてとらえられる。

2. 学習メディアとの関わり

これらの動きに関して、学習メディアはどのような役割を果たすのか。導入が進む大型映写装置やタブレット端末などのICTに関して、場面を分けてとらえてみたい。

1) 考えをもたせる

まず、学習者に各自の考えをもたせることが起点になる。ICT では、紙の図絵ではできない拡大ができる。関心に応じて部分を拡大し、見えるようになったことをもとに考えをもたせる学習が可能になる。一人一人に異なる情報源にあたらせることも可能になる。個別に映像資料を選ばせたり、検索ツールを用いて調べ学習を行ったりする。

考えを広げるためのイメージマップを描くようなアプリがある。シンキングツールを用いることで、各自の考えが明確になる。ICT は、アイデアを柔軟に動かしたり共有したりできるのが利点である。各自が能動的にアイデアを書き出し、動かして能動的に学ぶ。

2) 考えを整理・分析する

情報を集めた後は、その整理・分析が不可欠である。プレゼンテーションソフトでスライドを作る時、集めた情報が一覧されて、選択や分類、階層化などを経て整理され統合される。集めたデータを表計算ソフトに入れて、集計したり並べ替えたりすることもできる。グラフをつくることで、変化や関係を捉えたりすることができる。データベースを使えば、よりシステムティックに情報を選び出したり並べ替えたりすることができる。

3) 考えを言い表す

発表は、子どもにとってはハードルが高い。何かを写してそれについて説明する活動は、そのハードルを下げる。低学年からデジカメスピーチ（写真を撮って、それを説明する活動）で説明することに慣れ、学年進行にしたがって、実物投影機やタブレット PC を用いて資料やノートを写しながら考えを述べるような活動につなげていく。その中で、大事な所を矢印で指したり、部分的に大きく映すようなことも、自然に身に付ける。

プレゼンテーションソフトを用いた発表では、伝えるためにどんな画面を見せて何を話すかを計画する。発表のシナリオを準備して参照しながらスピーチしたり、示した項目や図や絵を示しながらより自由に話すことも身に付けさせる。

4) 他者の考えとすり合わせる

個人の考えがグループやクラスで共有されると、自分の考えとは違う考えと出会うことになる。ICT を用いることで、一人の考えやデータを、他者とやりとりすることが容易になる。グループのメンバーがそれぞれのタブレット PC で集めた情報を、互いにやりとりして共有する。そうして広げた情報を、分類したり組み合わせたりしながら、協同的に考える。

5) 記録をとって振り返る

学習の締めくくりでは、それまでの学習を振り返って、各自が考えを再整理することが重要である。そのためには、学習の流れを写真やデータで記録し（いわゆるポートフォリオ）、それらを一覧して学習事項の整理枠組みをつくり直したり、得た情報を位置づけ直したりする。ICT を用いて、学習のプロセスを逐一記録しておくこと、これがやりやすくなる。

3. 実践的な教育メディア研究の視点から

ICT を使うには、主体的な操作が必要である。それが、主体的な学習を生み出すように思いがちだ。しかし、よく計画された課題や問いがなければ、時間ばかりかかる意味のない活動になりかねない。また、うまく他者と意見を交わらせ高めていくことも重要である。どのような目的で、どのような学習プ

プロセスを経て、どのような考えをもたせるかを検討することが、何より重要だ。

したがって、先の5つの場面に応じて、ICT活用に関する研究課題として、2つのことがのぞまれる。一つ目は、ICTの活用がどのような主体的・協同的な学習を生み出すのかである。ICTが提供するさまざまなツールやアプリは、学習をどのように主体的・協同的にするのか、学習者の行動をどのように変えるのか、学習成果にどのような影響を与えるのかについて明らかにすることは、新しいツールやアプリの開発も含めて研究課題となる。

一方で、これから求められる学習の仕方において教師の役割が変化すると指摘されている中で、期待する成果をあげるために、どのような学習環境を提供すればよいか、教師はどう関わればよいかを具体的に示すことも大事な研究課題となる。

この2点に加えて、評価とメディアとの関わりもこれから検討されていく必要がある。メディアを通して、学習成果を顕在化することができるのか、できるとすればどのような方法が望ましいかである。

本学会が、これらの課題に対して大いなる貢献ができるように、現場とつながる研究をますます進めていって欲しい。

編集委員会からのお知らせ

編集委員会（委員長／鈴木克明：熊本大学）

■特集号「タブレット端末環境と実践・評価・運用」（予定）（Vol. 23, No. 2）募集のお知らせ

本巻の教育メディア研究では「タブレット端末環境と実践・評価・運用」というテーマで特集を組みます。「フューチャースクール推進事業」「学びのイノベーション事業」以降、各自治体や学校でタブレット端末環境の導入が進んでいます。効果的なタブレット端末導入・普及・運用の在り方、タブレット端末用教材の開発・評価、学習デザインや指導方略及びその効果、指導者の養成・研修、国内外の実態調査や展望など、教育におけるタブレット端末環境に関して多様な側面からの研究論文を広く募集します。

また、同時に一般論文も広く募集します。多くの会員の方からの投稿を期待しています。

締切：2016年7月30日

編集委員会・企画委員会合同ワークショップのお知らせ

編集委員会（委員長／鈴木克明：熊本大学）
企画委員会（委員長／佐藤幸江：金沢星稜大学）

■編集委員会・企画委員会合同ワークショップ「タブレット端末環境と実践・評価・運用」のお知らせ

2016年7月30日投稿締め切りの「教育メディア研究」23巻2号において、特集号「タブレット端末環境と実践・評価・運用」を予定しています。本特集号テーマと関わって、2016年3月30日（水）13:00から、学会の編集委員会・企画委員会の合同企画によるワークショップを開催いたします。本ワークショップにご参加いただき、投稿へのひとつのステップとしてください。また、こうしたテーマについて、情報収集をしたい方、議論の輪に加わりたい方も歓迎します。

<開催場所> 2016年3月30日（水）13:00～

<開催場所> 京都外国語大学 1号館

大学までのアクセス <http://www.kufs.ac.jp/access/index.html>

・阪急京都線利用の場合

「西院」駅から西へ徒歩約15分

または市バス「西大路四条」から「京都外大前」で下車（所要乗車時間約5分）

・JR線利用の場合

「京都」駅烏丸口から市バス28系統、八条口から市バス71系統に乗車、

「京都外大前」で下車（ともに所要乗車時間約30分）

・地下鉄烏丸線利用の場合

「四条」駅下車、市バス「四条烏丸」から3・8・29系統に乗車、「京都外大前」下車（所要乗車時間約15分）

・地下鉄東西線利用の場合

「太秦天神川」駅から南へ徒歩約13分

<当日のスケジュール>

12:30 受付開始

13:00 挨拶

13:10 本ワークショップの主旨説明

鈴木克明（熊本大学）、永田智子（兵庫教育大学）

13:20 関連研究に関する話題の提供

森下孟（信州大学）

市川尚（岩手県立大学）

瀬戸崎典夫（長崎大学）

14:40 休憩

15:00 グループワーク

コーディネータ：浦野弘（秋田大学），永田智子（兵庫教育大学）

※グループにわけ，特集号テーマについて，自身が進めている（あるいは，進めたい）研究を紹介（レジюмеを持参）し，グループで議論します。

A4・1枚程度のレジюмеに概要をまとめ，10枚印刷し，持参してください。

16:30 論文投稿にあたっての注意点（編集委員）

16:50 挨拶

17:00 終了

※18:00 ごろから西院駅近くの店（予定）で懇親会

<申し込み>以下のサイトから申込可能です。

<http://goo.gl/forms/9d9ee8op4I>

2015 年度第 2 回研究会のお知らせ

■開催テーマ 「メディア教育のための学習環境・教員支援／一般」

研究会委員会 (国内研究会担当委員長／稲垣忠：東北学院大学)

研究会委員会 (本企画担当／泰山裕：鳴門教育大学)

教育を取り巻くメディア環境が大きく変化する中、メディアを活用した教育やメディアを扱うための能力の育成などが求められています。そこで今回は、そのような教育実践を支えるための学習環境・教員支援をテーマとした研究報告があります。その他、本学会がテーマとする内容に関する研究報告も予定しています。

■日程 2016 年 3 月 26 日 (午後を予定)

■場所 関西大学 東京センター

<http://www.kansai-u.ac.jp/tokyo/>

JR 東京駅日本橋口隣接

■参加費 資料代 1,000 円

■発表申込み (締め切りしました)

本研究会の発表は学会員、非会員を問わず発表することができます。発表申込みをされた方は研究会委員会からの連絡に従って原稿提出をお願いします。

原稿提出 : 2 月 29 日 (月) まで メールにて提出をお願いします。

なお、原稿は学会 Web サイトにある書式に従ってご執筆をお願いします。

4 頁以上、10 頁以内の偶数頁です。

■参加の申込み

本研究会は、発表をしない参加も受付ております。会場の都合上、事前申込みのない当日参加はできませんのでご注意ください。下記 URL のフォームをご利用いただき、「発表しない」にチェックをいれてください。研究報告の第二、第三著者の方が参加される場合にも、同様に「発表しない」にチェックの上、申込みをお願いします。懇親会への参加も歓迎します。

URL: <http://jaems.jp/meeting/>

ICoMEのご案内

第14回 ICoME2016 京都外国語大学にて開催

Theme : Building relationships and a sense of community in a digital society

国際研究会

いよいよ日本で開催です。是非ご参加ください。昨年度に引き続き、日本教育工学会と連携して開催する予定です。

基調講演



Dr. Charles M. Reigeluth 氏をおよびする予定です。昨年 11 月アメリカにて鈴木前会長にご依頼いただきました。

インディアナ州立大学 名誉教授

著書など「Instructional-Design Theories and Models, Volume III: Building a Common Knowledge Base」

大会ホームページ

<http://icome2016.iwd.jp/> <http://jaems.jp/icome>

ICoME2016 主催 日本教育メディア学会 連携 日本教育工学会

アブストラクト締切 5月上旬

日程・場所

- ・スケジュール 2015年8月18日(木)～20日(土)
- ・会場 京都外国語大学 <http://www.kufs.ac.jp/>
- ・Date : August 18 ~ August 20, 2016 (Thursday – Saturday)

Location: Kyoto University of Foreign Studies <http://www.kufs.ac.jp/en/index.html>

Aug. 18 Keynote Speech, Concurrent Session, Roundtable Session

Aug. 19 Concurrent Session

Aug. 20 Off-Site Visit & Cultural Experience

特徴

- ・研究者、院生、学部生の交流
- ・英語での発表：コンカレント 大学院生、学部生の発表と交流会 (RoundTable)
- ・日中韓の交流会 共同研究協議
- ・英語ジャーナルの発行 (ISSN 1882-2290)

夏の京都、海外観光客で大変込み合いますが、海外学生、研究者のための宿を京都外国語大学村上実行委員会委員長の手配で準備が進んでおります。詳細は web にて近日公開予定です。

◆ 学会費納入のお願い ◆

<納入のお願い>

2015年度(2015年4月1日から2016年3月31日)の年会費(正会員7,000円、学生会員4,000円)が未納の方は、下記口座にお振り込みいただくようお願いいたします。

<送金先>

銀行名：ゆうちょ銀行 種目：普通 店番：418 店名：四一八店(ヨンイチハチ店) 口座番号：0865850 名義：日本教育メディア学会(ニホンキョウイクメディアガクカイ)
--

- ※ 振込手数料は、ご負担ください。ゆうちょ銀行口座からATMを使って納入いただく場合、手数料は無料です。
- ※ ご自身のゆうちょ銀行口座以外から振り込む場合は、振込人名義を「学会名簿に登録した会員氏名」にして下さい。それが出来ない場合は振込後、事務局にメールでご連絡ください。大学事務局を通じた大学名による振り込みは、どなたの会費か判断できないため避けていただくようお願いいたします。
- ※ 過年度年会費をまとめて振り込む場合には、学会事務局にご連絡ください。
- ※ 学生会員は、学生・大学院生(社会人学生を除く)です。会費納入に併せて学生証などの証明書類を事務局宛に提出してください(スキャナ、デジタルカメラ等で取り込んだデータのメール添付でも受け付けます)。

◆ 登録情報更新のお願い ◆

本学会では、「学会通信」および重要なお知らせを電子メールで会員に配信しております。また、学会論文誌「教育メディア研究」を郵送しております。これらを確実にお届けするために、学会からのメール・学会論文誌が届いていない方は、事務局までメールアドレス、お届け先住所の情報をお送りくださるよう、よろしくようお願いいたします。

【入会者・退会者】※敬称略

新入会員・正会員 (1名)・・・影戸 悠一

新入会員・学生会員 (1名)・・・陳 セイセン

退会者・正会員 (5名)・・・小野 倫寛、杉本 文司、加藤 清方、中村 博幸、町田 喜義(平成26年度以前の未処理者を含む)

会員総数 402名・16団体

名誉会員：3名

正会員：357名

学生会員：42名

団体会員：6団体

購読会員：10団体

(平成28年1月21日現在)

<p style="text-align: center;">日本教育メディア学会 事務局</p> <p>〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 4-88 大阪教育大学 寺嶋浩介 研究室内 E-mail : office@jaems.jp 学会ホームページ URL : http://jaems.jp/</p>	<p style="text-align: center;">広報委員会</p> <p>委員長 後藤康志 (新潟大学) 副委員長 渡辺 雄貴 (東京工業大学) 委員 岩崎千晶 (関西大学) 井ノ上憲司 (長崎県立大学) 遠海友紀 (京都外国語大学)</p>
--	---